

永井恒司先生 FIP 名誉会員の推挙を祝う

原島秀吉

Hideyoshi HARASHIMA

北海道大学大学院薬学研究院薬剤設計学教授

この度、永井恒司先生が国際薬学連合(International Pharmaceutical Federation：FIP)の名誉会員に推挙されました。永井先生の FIP への永年にわたる貢献により名誉会員の榮譽に浴されることとなり、心よりお慶び申し上げます。ここに限られたスペースですが、永井先生のこれまでの貢献の軌跡をご紹介します。

1975 年、当時 FIP 副会長であった石館守三先生の勧めで、アイルランドで開催された FIP コングレスに初めて参加し、研究発表されました。1986 年には、FIP の学術分野で最も権威あるヘストマドセンメダル賞を受賞されました。この賞は、FIP の第 3 代会長であるヘストマドセン博士を称え、薬学の進歩に多大な貢献をした研究者を対象に 2 年に一度授与される大変名誉ある賞であり、日本人初の受賞となりました。1986～1994 年には FIP 副会長と同時に FIP 教育研究財団理事や Fellowship Subcommittee 委員長、BIO International 企画委員などを務められています。その後、2000 年にサンフランシスコで開催された第 1 回世界薬学会議では、組織委員と財務募金委員長を務められています。

特筆すべきは、中国薬学会の FIP 加盟にご尽力されたことです。中国薬学会は FIP 加盟を切望していたのですが、台湾薬学会が既に加盟しており、難航を極めていました。当時 FIP 副会長であった永井先生は両国薬学会を仲介し、6 年の歳月をかけ、1992 年リオンで開催された FIP コングレスにて、中国薬学会の加盟と台湾薬学会の名称変更(The Pharmaceutical Society of China Taiwan)が承認されました。

このように FIP に多大な貢献をされた永井先生の FIP 名誉会員へのご推挙を心からお祝いするとともに、ますますのご健勝を心より祈念致します。

MEDCHEM NEWS Vol.21 No.3 (8月1日発行)

巻頭言	明日の日本の発展、世界の PMDA を目指して：私の取り組み	近藤達也
創薬最前線	大塚製薬の創薬研究	石川 廣
WINDOW	Recent advances in the drug discovery of GPCR allosteric modulators	Jean Philippe Rocher
ESSAY	抗体医薬の発展が化合物医薬の衰退を招くか	増保安彦
DISCOVERY	長時間持続型抗インフルエンザ薬・ラニナミビルオクタン酸エステル	小林慶行
	<第 29 回メディシナルケミストリーシンポジウム優秀賞>	
	・前立腺癌治療薬を指向した高選択的経口 17, 20-リアーゼ阻害薬 TAK-700 の創製	加来智弘ほか
	・Structuar-based Drug Design による新規 Hsp 90 阻害剤 CH 5164840 の創製	小宮山享ほか
	・抗肥満薬・NPYY 5 受容体拮抗薬 S-2367(ベルネペリット)の創製	奥野隆行ほか
	・7 員環ベンゾラクタム類の軸性キラリティーと酵素(ACAT)阻害作用	田畑英嗣ほか
	<平成 22 年度医薬化学部会賞>	
	・新規ホルモン不応性前立腺癌治療剤(ZR 291)の創薬研究	佐藤晴彦ほか
REPORT	AACR 2011 参加報告	富田直輝
Coffee Break	音楽と薬—愛の薬とニトログリセリン—	小佐野博史